

栄養生命科学教育部

I	教育の水準	教育 5-2
II	質の向上度	教育 5-4

I 教育の水準（分析項目ごとの水準及び判断理由）

分析項目 I 教育活動の状況

〔判定〕 期待される水準を上回る

〔判断理由〕

観点1-1「教育実施体制」について、以下の点から「期待される水準を上回る」と判断した。

- 基礎生命科学や人間栄養学等に関する幅広い教育を行うことを目的として、栄養生命科学教育部を含む5教育部共同で大学院共通カリキュラム科目を開講し、社会人学生に対しては e-learning 等を活用するなど、効果的な学習環境を整備している。
- 全国のがんプロ養成プログラムで唯一の「がん専門栄養士コース」について、平成20年度に博士後期課程、平成25年に博士前期課程を設置している。また、平成26年度には「がん病態栄養専門管理栄養士」の認定資格制度の確立に至るなど、社会的ニーズに応える取組を継続して行っている。
- 平成25年度に人間栄養科学専攻の基幹講座に疾患治療栄養学分野を新設し、平成23年度に連携講座に宇宙栄養学分野、平成27年度に栄養化学分野という独創的な分野を新設するなど、栄養学の研究者を育成する新たな体制を構築している。

観点1-2「教育内容・方法」について、以下の点から「期待される水準にある」と判断した。

- 第2期中期目標期間（平成22年度から平成27年度）に、大学間交流協定校のハノーバー医科大学（ドイツ）へ4名を派遣している。
- 平成21年度の組織的な大学院教育改革推進プログラム「医療クラスターによる組織的大学院教育」により6教育クラスターを形成し、領域・職種横断的な教育プログラムを構築している。

以上の状況等及び栄養生命科学教育部の目的・特徴を勘案の上、総合的に判定した。

分析項目Ⅱ 教育成果の状況

〔判定〕 期待される水準にある

〔判断理由〕

観点2-1「学業の成果」について、以下の点から「期待される水準にある」と判断した。

- 第2期中期目標期間の標準修業年限内の修了率について、博士前期課程は平均98.1%、博士後期課程は平均76.8%となっている。
- 博士前期課程学生の学会発表数は、平成22年度の45件程度から平成27年度の65件程度となっている。

観点2-2「進路・就職の状況」について、以下の点から「期待される水準にある」と判断した。

- 第2期中期目標期間の修了生の就職希望者の就職率は、95%を超えており、製薬・医療系の企業、病院、食品系の企業及び行政・学校教育等の栄養学を活用できる分野に就職している。
- 博士後期課程への進学率は、平成22年度の27.3%から平成27年度の45.5%となっている。
- 就職先のアンケート結果では、「仕事上の課題等に責任感、倫理観を持って取り組む姿勢を持っている」等の全9項目において、8割以上が肯定的な回答となっている。

以上の状況等及び栄養生命科学教育部の目的・特徴を勘案の上、総合的に判定した。

Ⅱ 質の向上度

1. 質の向上度

〔判定〕 質を維持している

〔判断理由〕

分析項目Ⅰ「教育活動の状況」における、質の向上の状況は以下のとおりである。

- 平成 21 年度の組織的な大学院教育改革推進プログラム「医療クラスターによる組織的大学院教育」により 6 教育クラスターを形成し、クラスター単位での教育指導、専門領域の学習方法の工夫、教育課程の体系化への取組等、領域・職種横断的教育プログラムを構築している。

分析項目Ⅱ「教育成果の状況」における、質の向上の状況は以下のとおりである。

- 第 2 期中期目標期間の標準修業年限内の修了率について、博士前期課程は平均 98.1%、博士後期課程は平均 76.8%となっている。
- 博士前期課程学生の学会発表数は、平成 22 年度の 45 件程度から平成 27 年度の 65 件程度となっている。
- 第 2 期中期目標期間に博士の学位を取得した学生の 78.6%は、教育・研究機関へ就職している。

これらに加え、第 1 期中期目標期間の現況分析における教育水準の結果も勘案し、総合的に判定した。